

JFM だより

vol. 28

INDEX

- 01 融資の実
- 05 がんばる公営競技
- 07 JFM Topics
- 09 地方支援ダイアリー
- 13 人事交流日記&ふるさと紹介
- 14 編集後記
- 15 機構からのお知らせ
- 15 私たちもJFM債買ってます!

[JFMとは、**J**apan **F**inance Organization for **M**unicipalities の略称です。]

Feature

北海道利尻郡利尻富士町 海の駅おしどまり(鴛泊港フェリーターミナル)



金融で地方財政を支え 地域の未来を拓く
地方公共団体金融機構
Japan Finance Organization for Municipalities



融資の実：機構の融資が、どのように活かされているかをご紹介します。

Feature 北海道利尻郡利尻富士町 海の駅おしどまり（鴛泊港フェリーターミナル）

町民や観光客の快適な交通を支える 離島と都市を結ぶ新しい拠点

利尻富士町は、北海道の離島、利尻島の北東部を占めます。

町の人々にとって重要な交通手段が、利尻島と稚内や礼文島を結ぶフェリーです。

平成26年3月、利尻富士町の玄関口である鴛泊港フェリーターミナルが「海の駅おしどまり」として生まれ変わり、

快適に安全に利用できるようになりました。



▲ 利尻富士町のマスコットキャラクター
りっぶくんとりっぶちゃん



▲ 外観(海側から)



▲ フェリー接岸の様子

所在地：北海道利尻郡利尻富士町鴛泊字港町235番地
構造：鉄筋コンクリート造2階建
敷地面積：約7,351m²
延べ床面積：約2,077m²
工期：平成24年3月28日～平成26年2月28日
供用開始：平成26年3月25日



▲ 外観(陸側から)



▲旧フェリーターミナル待合室の混雑の様子



▲旧フェリーターミナルにおける乗船の様子



▲ boardingブリッジ外観



▲ boardingブリッジ内観

「boardingブリッジ」の設置により、
いかなる天候でも快適に乗船することが
できるようになりました。

新しく生まれ変わった町の玄関口

利尻島は北海道の北部、日本海に浮かぶ、面積約182km²の島です。利尻富士町はこの島の北東部を占め、2,492人(平成30年12月末時点)の人々が暮らしています。

利尻富士町の人々にとって重要な交通手段が町内の鴛泊港と稚内・礼文島を結ぶフェリーです。稚内とは約1時間40分で結ばれており、1日最大4便が運行しています。買物や通院、旅行など、多くの町民が日常的に利用しています。また、利尻島を訪れる観光客にとっても重要な交通手段であり、観光客の約80%がフェリーを利用して利尻島にアクセスしています。

この利尻富士町の玄関口となる鴛泊港フェリーターミナルが一新されたのは平成26年3月のことです。新し

く「海の駅おしどまり」として、快適に利用できる施設に生まれ変わり、利便性が飛躍的に高まりました。

「最大の特徴は北海道の離島としては初となるboardingブリッジの設置です。雨や雪、強風にさらされることなく直接フェリーに乗船できるようになりました。町民の方々にとって念願ともいえる施設を実現することができたのです。」(利尻富士町産業振興課水産港政係・高柴祐輔係長)

島の生活を支えるフェリーターミナル

昭和58年に建設された鴛泊港フェリーターミナルは発券所と待合スペースの区切りもなく、乗船前には乗客で満杯となり、人があふれて屋外にも行列が延びるという状況でした。

また、フェリーの乗降には岸壁からフェリーにかけられるタラップを利

用していました。そのため、タラップでは雨や雪にさらされる上に、不安定で勾配もあり、救急患者の搬送も容易ではありませんでした。併せて、最近ではキャリーバッグを利用する旅行者が多く、このような荷物の扱いでも作業量が増していました。

このような状況の中、平成22年に地域メンバーを主体として構成された鴛泊港長期構想利用計画検討懇談会を開催し、施設の老朽化対策やバリアフリー化等の検討をしました。懇談会における様々な意見・提案を踏まえ、平成23年2月に長期構想が具体化し、平成24年3月に着工、そして2年後の平成26年3月に新施設が完成し、「海の駅おしどまり」として供用の運びとなりました。利尻富士町では、この建設財源の一部に港湾整備事業債を活用しています。



融資の実：機構の融資が、どのように活かされているかをご紹介します。



▲ 2階(待合室)

2階の待合室は
光をふんだんに取り入れる
作りとなっており、
開放感あふれる空間となっている。

施設全体において
動線をゆったりと確保している。
さらに、乗船・下船の
動線を分けているため、
混雑時もスムーズな
移動を可能にしている。



▲ 1階(切符売場、案内所)



▲ 2階(休憩所)



▲ 2階(インターネットカウンター)

離島と都市を結ぶ交流活動の拠点として

「海の駅おしどまり」は延べ床面積約2,077㎡を有する2階建ての施設です。内装には木材をふんだんに使用しており、海側の全面ガラス張りから差し込む太陽光と併せて、木の温もりを感じることができます。2階にはボーディングブリッジが設置され、室内から直接フェリーに乗船できます。ブリッジの通路も平坦で車椅子での移動や救急患者の搬送もスムーズに行うことができます。広々とした待合スペースを設けて余裕ある導線を確認しており、混雑時でも風雨にさらされることなくターミナル内で乗船待ちができるようになりました。

1階には切符売場をはじめ、案内所、土産物店などがあります。1階と2階を結ぶエレベーターは、救急搬送用ストレッチャーが収まる仕様になっています。トイレの音声案内や多機能トイレなど、随所にバリアフリー対応の設備を導入し、高齢者や障がい者の方も快適かつ安全に利用できる施設となっています。

利尻富士町では、新しいフェリーターミナルの活用にあたって「みなとオアシス」及び「海の駅」の登録を行っており、観光情報の発信やイベントの企画など

も積極的に進めています。2階フロアに開設したラジオ放送ブースもそのような取組の一つです。稚内市のFMラジオ局と提携して月1回独自の番組を制作し、インターネットを通じて全国にも配信しています。

最近では、近年増加している外国人観光客への対応策として、外国語を話せる案内スタッフの配置や、外国語の観光パンフレット設置の取組も行っています。

「島外から訪れる方が最初に目にする利尻富士町玄関口として、充実した施設になったと思います。住民の方々にも観光客にもとても好評です。」(同課同僚・佐々木諒介主事)

「町民の方々などが参加した鷺泊港活性化推進協議会と連携して、ターミナルの敷地や近隣の公園などで独自のイベントを開催しています。今後も地域で連携して様々な工夫を重ね、町民の方だけでなく、観光客の方々にも目を向けたイベントを開催するなど、町の新しい拠点としてさらに盛り上げていきたいと考えています。」(高柴係長)

利尻富士町では、「海の駅おしどまり」を離島と都市を結ぶ交流活動の拠点と位置づけており、今後も積極的な活動を推し進めていきます。

「海の駅おしどまり」を町の新しい拠点として、さらに盛り上げていきたいと思ひます。



▲ 利尻富士町産業振興課水産港政係・高柴祐輔係長(右)
佐々木諒介主事(左)



ご当地紹介 北海道利尻郡利尻富士町 北の秀峰、利尻山とともに

利尻島は、北海道最北端となる宗谷岬の南西62kmにある日本海の離島です。利尻富士町は、この島の北東部を占め、利尻町と隣接しています。町の主な産業は漁業と観光業です。漁業面では、昆布やウニ、アワビなどの漁に加え、最近では沿岸漁業にも力を入れ、鮭の孵化放流など育てる漁業にも取り組んでいます。また、観光面では、利尻礼文サロベツ国立公園の一角として、年間約15万人(平成29年度)の観光客が訪れ、最近では外国人観光客も増加しています。

利尻島のシンボルともいえるのが、島の中央にそびえる標高1,721mの利尻山です。日本百名山では北の秀峰として一番目に挙げられており、富士山を彷彿とさせる風貌から「利尻富士」とも呼ばれています。深い谷と鋭い尾根により荒々しい姿を呈している一方で、山麓には湖沼や湿原が点在しています。山頂からの眺めは素晴らしく、360度海に囲まれた大パノラマを楽しむことができます。この利尻山を守る取組の一つとして、利尻富士町では利尻町と共同で「利尻山コマドリプロジェクト」を実施しており、ピンバッジを販売し、その収益を利尻山の山岳保全に活用しています。

特産品は、利尻山からの湧水で育った、国内最高級品とも称される利尻昆布や、利尻昆布を食べて育った甘みたっぷりのウニ、脂の乗ったホッケ等の海産物で、北海の海の幸を存分に堪能することができます。

●----- 利尻富士町

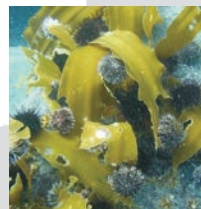


北海道利尻郡利尻富士町

人口: 2,492人 (平成30年12月末時点)

世帯数: 1,290世帯

面積: 105.61km²



▲ 利尻昆布とウニ



▲ ウニ丼